

「馬場小室山遺跡フォーラム」第 82 回ワークショップ

【 原動力！パブリック・アーケオロジー2017 】

馬場小室山遺跡のパブリック・アーケオロジーからみえてきた現代社会との「かかわり」と未来への新たな挑戦

<馬場小室山遺跡研究の新展開—縄文塚(「環提土塚」集落)の遠隔生業往還と広域流通社会からの大転換とは?—>

馬場小室山遺跡研究の新展開では限界(知識・経験・思考・領域等)からの知的解放を目指します！

新展開1	「ムロさま」の 「限界領域」打破 (墓場の公共性にみ る墓式と葬式の真 相)	馬場小室山遺跡「第51号土壙」から展望する縄文時代の葬墓式と「土器社会論」—「ムロさま」の「累積型改新土壙」と「積葬墓」から探る「追葬型集積土器棺墓」への途— (ムロ1)寺野東遺跡の「積葬墓」(「SX036埋設土器遺構」)に注目 (ムロ2)青森県の「再葬壺棺墓」/列島晩期の再葬動向/「金田一型土器棺墓」/ 土井ヶ浜遺跡の「弥生再葬墓」 (ムロ3)福島県鳥内遺跡の晩期終末の「追葬型集積土器棺墓」と弥生時代前期の 合口土器棺による「積葬墓」の土器社会論 (ムロ4)鳥内遺跡の弥生時代前期から中期初頭の「追葬型集積土器棺墓」に観る北方砂沢式 系文化から「御代田式」へ、そして中部条痕文系土器による交替劇の様相 (ムロ5)中部から北関東西部における前期の再葬壺棺墓から中期初頭の木棺墓への 移行を「阿武隈文化」と比較し、東関東や南奥と関係の深い前期の再葬壺 棺墓として田川流域の栃木県芝工業団地内遺跡の様相を把握する。 (ムロ6)「焼葬」(秋田県藤株遺跡の頭蓋骨無し)、「焼人骨集積」(岩手県稗内遺跡)、「人骨 集積」(愛知県保美貝塚)と抜歯、そして「髑髏信仰」(長野県宮遺跡の「積葬 墓」) (ムロ7予告)「人骨集積」から「土器棺集積」へ
新展開2	「オムちゃん」から 「ムロさま」への 「限界知識」打破	土偶から土面/顔面付土版/人面文土器等の関係、そして容器形土偶/顔壺へ (オム1)泉坂下人面イデオロギーの拡散ネットワーク (オム2)「人面文インダストリー論」による「亀ヶ岡型変相イデオロギー」の出現 (オム3予告)「髑髏信仰」と「亀ヶ岡型変相イデオロギー」、そして「ムロさま」 (オム4予告)「ムロさま」から再葬壺棺墓の顔壺へ
新展開3	「シオ(塩)もん」の 「限界経験」打破	「製塩土器」の確立から製塩遺跡の操業へ、爆発的普及の晩期社会と「定住制」の定着 (シオ1)定住制社会から生業往還としての製塩遺跡へアプローチ (シオ2)アマモやヨシ(アシ)の「草木灰」は濃縮工程での使用か? (シオ3)製塩遺跡の操業タイプ(短期型と長期型)と燃料問題 (シオ4)下布田遺跡の「製塩土器」在地性は古鬼怒湾型変遷との乖離現象にあり! 枯れたアマモを特定の場所に集めて乾燥させる「塩草場」の存在、及び <u>天日</u> <u>と地熱(熱砂)利用の採鹹工程</u> に相応しい「製塩土器」鉢形態の確立 (シオ5)宇都宮市刈沼遺跡からは寺野東遺跡よりも多数の「製塩土器」が検出。鬼怒 川流域の口縁部形態は下布田遺跡とは大きく異なり、古鬼怒湾型変遷の1 系列である口縁部水平ヘラカットが定着 (シオ6)三陸北部における「製塩土器」の年代と系統(1)久慈市大芦Ⅰ遺跡の長胴 深鉢形態と僅かな出土点数に注目
新展開4	「タマきみ(君)」の 「限界思考」打破	ヒスイ製勾玉・小玉の晩期流通(関東各地域拠点でも製作)と弥生時代中期中葉「再葬壺 棺墓」への流通実態(上越周辺北信経由)解明 (タマ1)熊谷市飯塚南遺跡の土坑墓出土ヒスイ製勾玉と飯塚遺跡群 (タマ2予告)長野県坂城町保地遺跡の抜歯人骨とヒスイ製垂飾品の年代

さいたま朝日

2017年(平成29年)8月27日

絵を書き続けて40年。もともと生物や風景を油絵で描いていた井山紘文さん。制作のイメージを自分自身の奥深くに求めていくなかで、古代から人間が生活してきた大地の「土」への関心が高まってきた。同時に中学生の頃、見沼田んぼ西縁にある市立病院裏手の工事現場で、何層にも重なった地層の断面を見つけたときの記憶も鮮明に湧き起こってきた。そこから独自に考古学を探索する顔料として、木工用ボンドを混ぜ合わせながら描く。キャンパスは、収穫されたコーヒード豆が入れる麻袋と同じ素材で作っている。

土の色合いはそれほど幅広くはない。せいぜい黒や茶、赤茶だ。だが井山さんは「私にとっては、その土の制約というか、束縛が魅力的なんですよ。土の色を再認識してもらい、わずかな色気や、何かを感じてもらいたい」と地元の見沼田んぼの土で表現できることが幸せだと語る。

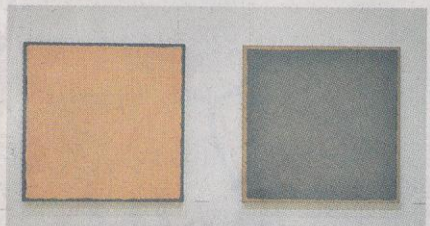
見沼田んぼで考古学を探索する過程で、緑区三室にある馬場小室山遺跡を知る。遺跡を守る活動には立ち上げから参加し、いま「馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラ

ひと

さいたまの
No.37
見沼田んぼの土で描く
画家・井山紘文さん
(緑区)

△の中心人物でもある。これも見沼田んぼの土が縁となった井山さんの活動の一つだ。

◎井山紘文「天然顔料・水彩」展 9月2日(土)~16日(土) 水曜休館 柳沢画廊(浦和区高砂2-14-16) ☎822-2712/浦和駅西口徒歩5分




2.【「山田湾まるごとスクール」】： 第5回「山田湾まるごとスクール」のふりかえり

・【今回の企画】6/23-25の下見や関係機関との調整、そしてパブリック・アーケオロジーの実践企画を経て、今回の特徴は大きく4点あります。

1点目は山田史談会にもお声がけして進めている川端弘行コレクション(畠中遺跡が中心)の整理活動です。今回の学習テーマは縄紋の正体(齋藤弘道さん)と土偶(安井健一さん)にしました。

2点目は昨年来の交流である北浜老人クラブ(東海林和彦事務局長)の9月例会訪問です。30名を超える参加者に近隣にあります房の沢古墳群の地域におけるお宝ぶりを紹介しました(五十嵐聡江さん)。併せて東海林さんの奥様が陶芸教室で制作された縄文土器も紹介しました(齋藤弘道さん)。

尚、難産であった「北浜老人クラブ・山田湾まるごとスクール交流記録—『浜よ、ふたたび』から学ぶ復興への思い—」(五十嵐聡江編集 2017-8-20)が刊行され、改めて初心に返り、防災・減災への教訓を振り返る機会となりました。奥付が表紙と違っていますが、表紙が正しいようですので訂正下さい。

3点目は大浦仮設住宅の方々との交流です。復興住宅の整備が進み、仮設住宅は閑散としてきましたがその後の生活も心配です。そこでまさに今の歴史として平成の復興住宅への移転を新たな復興課題とし、参加された方々から3・11前のお宅と移転後のお宅の聞き取り調査を4グループに分け、全員参加で行いました。ご本人に限らず、知人の移転状況も教えてくださいました。今後は大浦地区の大半が川半貝塚への高台移転であることから、川半貝塚の意義も含めた津波被災人類史として大浦の歴史を学び合いたいと思います。

4点目は「鯨と海の科学館」がリニューアルオープン(7/15)を記念して、田の浜(大洞)貝塚の鯨骨製品(鈴木正博さん)や縄文時代前期から中期の鯨骨製品(齋藤弘道さん)について学習しました。

・【今後の展望】今回はこれまでとはやや違う印象を受けました。それは山田町全体が復興の新たなステージを迎えつつある中、地元のお宝話を聞きたいという気持ちが強く伝わりました。「いつでもどこでもパブリック・アーケオロジー」を謳い文句に山田史談会や北浜老人クラブの要請に応えるべく、「地元のまるごとスクール交流」を企画し、山田湾に寄り添い皆様と一緒に学びたいと思います。

3. 【「シオ(塩)もん」の話題】： 栃木県宇都宮市刈沼遺跡の「製塩土器」が正式に報告されました

- ・江原英(2017)『栃木県埋蔵文化財報告第388集 刈沼遺跡・刈沼向原遺跡—宇都宮テクノポリスセンター地区開発に伴う埋蔵文化財発掘調査—』、栃木県教育委員会・公益財団法人とちぎ未来づくり財団
- ・地理的勾配に従い、古鬼怒湾沿岸貝塚の1割以下の出土量です。報告書には102点の口縁部破片が掲載されています。破片が小さいため、出土状態から個々の「製塩土器」の年代は追求できません。
- ・口縁部形態では古鬼怒湾の「製塩土器」と共通した作法、特に口唇に粘土屑を残したものや、内傾カットや外傾カット、そして水平カットが目立つようです。大宮台地や武蔵野台地に顕著な輪積み痕を残すナデ作法は見当たらないようです。

4. 【「ムロさま」の頃の葬式各種】： 人骨から見た縄文晩期の葬墓式(除く一次葬としての屈葬・伸展葬)

4-1. 「人骨集積」と抜歯： 抜歯の教科書は山内清男(昭和12年)「日本先史時代に於ける抜歯風習の系統」

- ★山内清男の方法は歯式記号による抜歯のデータ化と年代別地域別の様式化による系統論に特徴があり、今日的なデータの蓄積を山内清男の方法で見直すことが喫緊の課題！

(1) 愛知県伊川津貝塚の「人骨集積」と抜歯

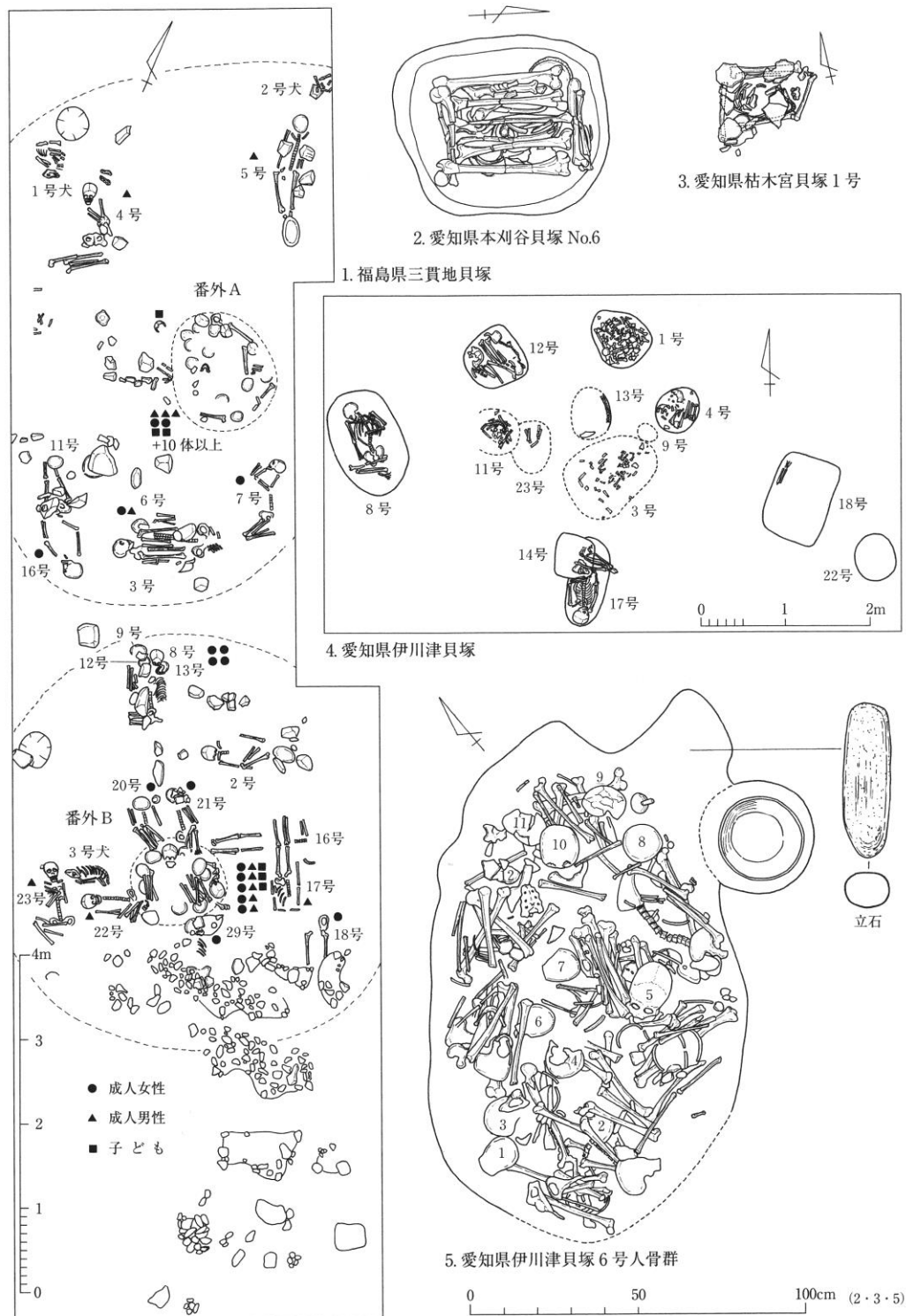
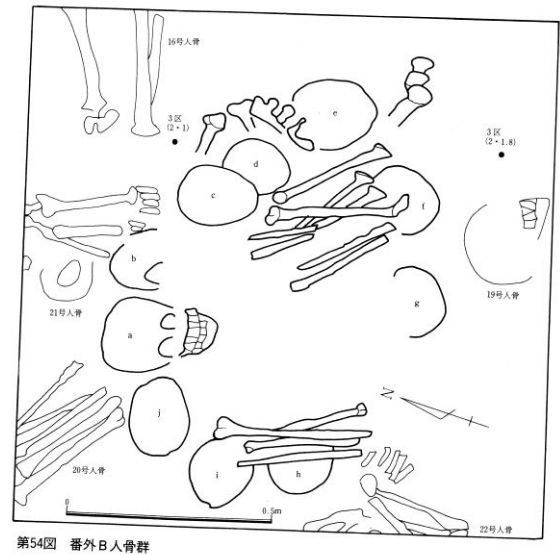
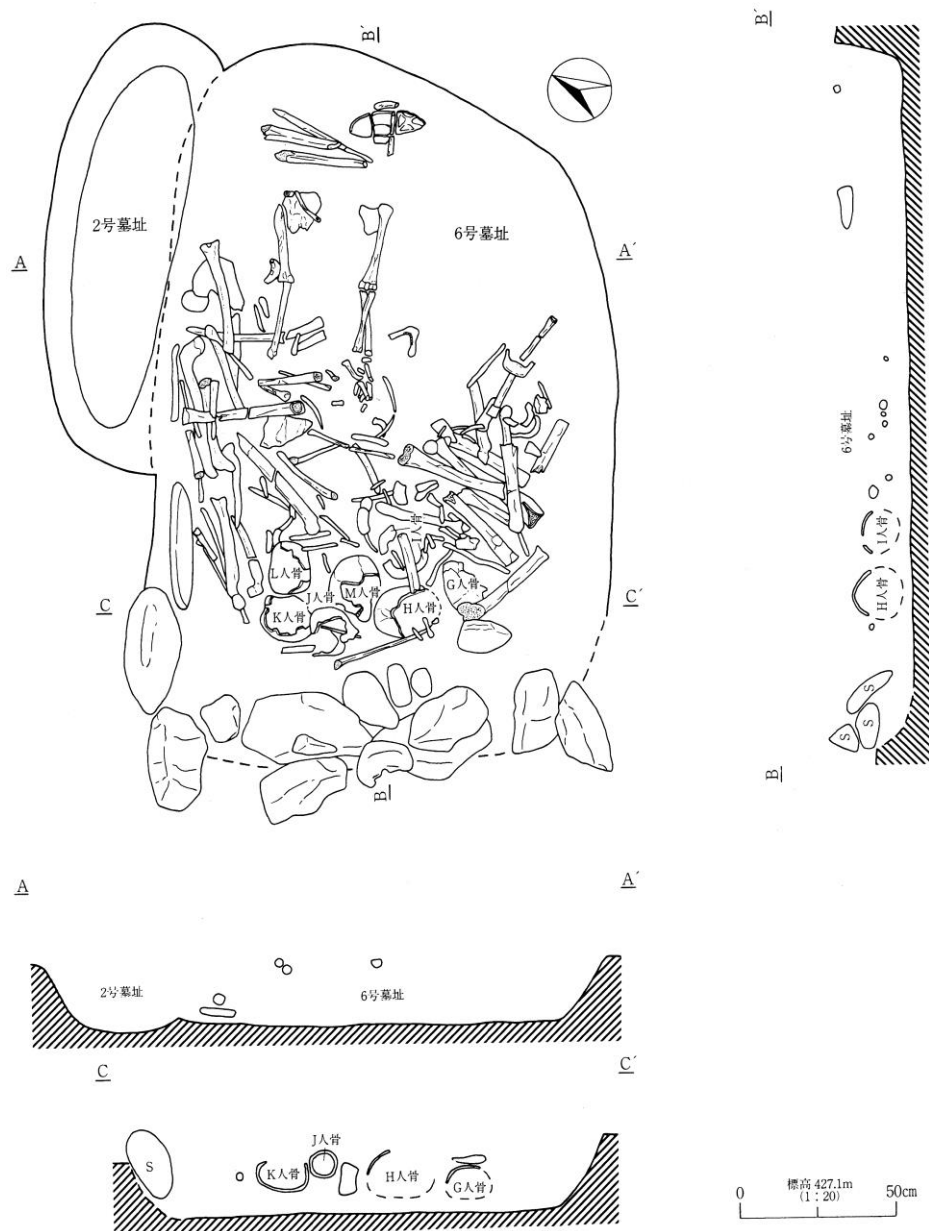


図 68 縄文時代の各種の集骨墓

(2) 福島県三貫地貝塚の「番外A」と「番外B」から探る「髑髏信仰」と抜歯

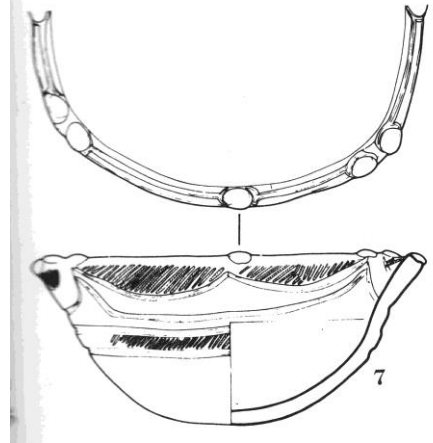
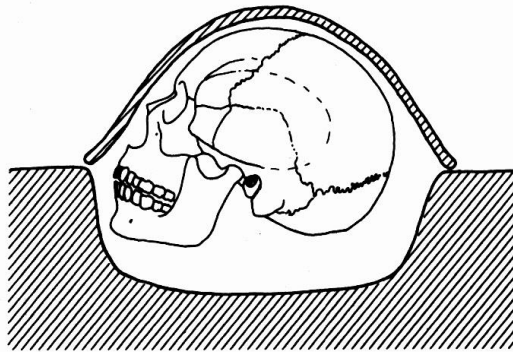


(3) 長野県保地遺蹟の「積葬墓」と抜歯、そして「髑髏信仰」への傾斜

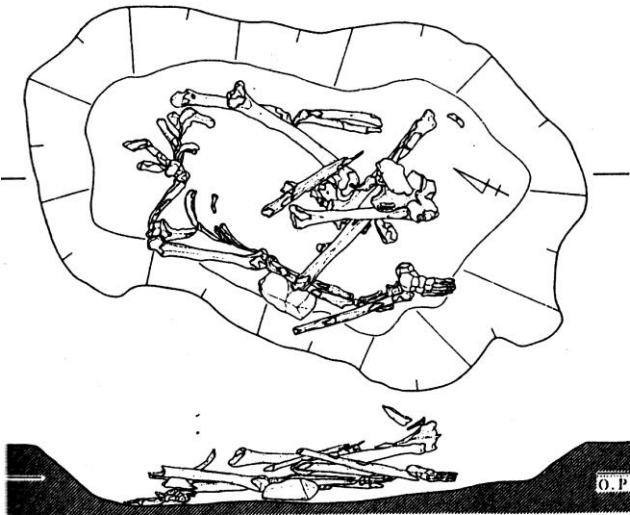


4-2. 「髑髏信仰」の変遷 : 「人骨集積」に親られる「髑髏信仰」から個別の「髑髏信仰」へ変遷と広域展開

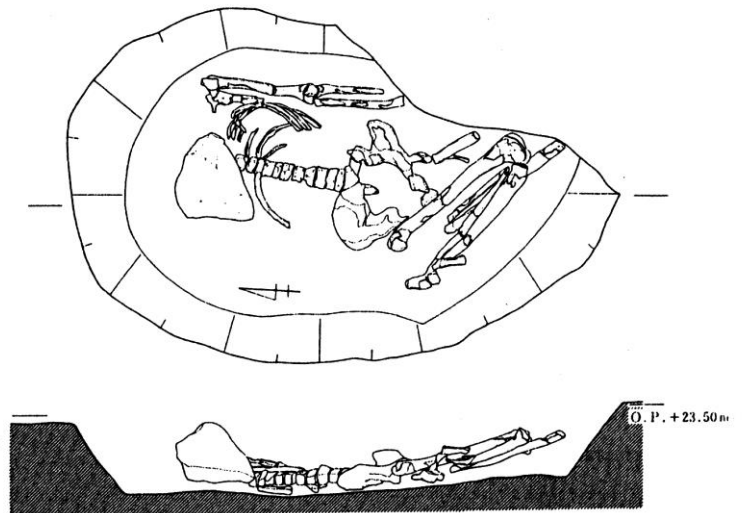
(1) 千葉県西広貝塚の「髑髏信仰」 : 頭蓋骨だけの再葬壺被り



(2) 大阪府日下貝塚の「髑髏信仰」 : 頭蓋骨が無い ! 26土坑では頭蓋骨の代わりに石が !



19



26

5. 【その他情報交換など】 : 自由な意見交換とワイン・アーケオロジー

5-1. 埼玉大学有機農業研究会支援 : 本城昇さん(名誉教授)の依頼で昨年からの継続中 !

- ・「みぬま秋フェス」で見沼の弥生時代を喜劇仕立てで紹介したいそうです。弥生時代とはどのような時代か、列島レベルの学習から見沼の弥生時代の特徴を学生たちに考えてもらいます。

5-2. 川半貝塚について : 復興住宅建設用地の発掘調査報告書が刊行 !

- ・川半貝塚の継続年代と貝層形成年代との関係に注目してみると・・・。

5-3. 『大田堯自撰集成(5)』の刊行イベント

- ・飯塚一恵さんの伝言情報によれば、11/4(土)・5(日)に埼玉大学にて刊行イベント開催の由。

5-4. 今後の予定

- ・10/29(日) 第83回ワークショップ／「みぬま秋フェス」弥生時代喜劇
- ・11/19(日)夜 飯塚邦明ジャズピアノ・コンサート(於:浦和文化センター)

5-5. その他

以上